学校だより
11月号

令和２年１０月２６日
横浜市立三ツ沢小学校

マイナスの気持ちをプラスに切り替えて

校長　重田　英明

群れとなって青空いっぱいに泳ぐ“いわし雲”も、残念ながら今年の秋はなかなか見ることができず、急に上着が手放せなくなってきました。そんな中、新型コロナウイルスの感染予防とお天気を気にかけながら、例年とは違った３日間分散開催の運動会を終えることができました。保護者の皆様には、子どもたちのがんばりを支えていただき、厚く感謝申し上げます。

「今年の運動会はこれまでとは違い、できないことがたくさんあってとても残念です。でも、わたしはこのマイナスの気持ちをプラスに切り替えて、今だからできる運動会にしたいです。」

これは、運動会実行委員長を務めた６年生の佐々木美渚さんが、テレビ放送でおこなった開会式で語った言葉です。運動会当日までの間、まさにこの言葉どおりの取組がいくつもおこなわれてきました。その中のいくつかを紹介させていただきます。

- 運動会のサブテーマをパフォーマンスで表現する「イッコール」と名付けられた活動がありました。応援団長の児童が全校に呼びかけ、希望者を募ってコンテストをおこないました。昼休みになると連日体育館に多くの児童が集まり、コンテストを楽しんでいました。もちろんここでもマスクはつけたままで、声の大きさではなく、ユニークな振り付けで競い合いました。
- 6年生が「パプリカ」の曲に合わせて全校ダンスの振り付けを考えてくれました。このダンスも当日の加点対象種目となりました。
- 徒競走は運動会当日だけの競技にとどまらず、練習期間における全校の子どもたち一人ひとりの記録の伸び方も総合得点に加えることにしました。
- 今年の運動会で唯一表現運動を披露した６年生のソーラン節では、威勢のよい大きな声が出せない代わりに、靴を履いて地面を踏みしめる音で力強さを表現しました。
- 会場づくりでは、これまでの万国旗に代えて子どもたちの思いを記した手作りの旗をたくさん掲げました。

この他にも、全校や学年、学級で“今年の運動会を盛り上げ、楽しむ工夫”が盛りだくさんの運動会でした。

このように、コロナ禍で学校生活においてもとかくネガティブになりがちな時世ですが、子どもたちや教職員のたくさんのアイディアとポジティブな考え方で、華やかさは薄かったものの深い意味合いがあった記憶に残る運動会だったと思います。

三ツ沢っ子、がんばったね！ありがとう！

2020 ダブルＰ－ス